

県立健康科学研究所機関評価シート

様式 3

評 価 者	県立健康科学研究所外部評価専門委員会	ページ	1 / 4
試験研究機関名	県立健康科学研究所		

区分	評価項目	評価の視点	評価コメント	県立試験研究機関へのアドバイス
1 各 機 関 の 個 別 項 目	(1) 基本的方向	○機関の役割を果たしているのか。	○研究所としての役割を果たしている。 ○科学・技術的な側面からの健康に関わる様々な試験検査や情報提供について、十分に役割を担っている。 ○健康危機発生時に迅速かつ的確に対応するための試験検査体制を確立している。 ○新型コロナウイルス感染症をはじめとする健康危機管理への対応及び科学的データの情報提供が適切に実施されている。 ○特に新型コロナウイルス感染症対応にあたっては、迅速に PCR 検査態勢を整えたのみならず、更に検査能力の増強も行っており、大いに貢献している。 ○公衆衛生情報の収集、解析、提供を行い、成果をホームページなどで発信している。	○次なるパンデミックも危惧されているところであり、今回の迅速対応を事例として、的確に記録保存し、今後に備えて頂きたい。特に限られた人員のなかで、臨機応変な人員配置体制を構築できたことが重要であったと考える。 ○今後とも健康危機管理における重点項目を明確にし、それに対応できる人材の確保・育成及び機器の整備・拡充に努められたい。 ○多くの重要な成果が出ているので、新型コロナウイルスなど、緊急性のある重要な成果は、学会、論文（英文も含めて）などで迅速に発表したほうが良いと思われる。
	(2) 業務の具体的展開	○研究の重点化の内容に沿った研究は行っているか。 ○試験分析、普及指導等は適切に行えているか。	○研究の重点化の内容に沿った研究は行えている。健康危機管理の原因究明検査等に対応した研究を重点的に実施している。 ○研究所の最も重要な役割である健康危機管理への科学的・技術的取組、情報提供も適切である。 ○新型コロナウイルス対応はもちろんのこと、その他の研究についても、コロナ対応で業務が大変な中で推進されており、問題はない。 ○試験分析、普及指導等は適切に行えている。健康被害等の原因究明検査、食品収去検査等を迅速かつ正確に実施しており、成果は、学会発表などで情報発信している。 ○学会発表や投稿論文の公表、講演会での発表、各種機関での指導・助言も実施し、適切に行われている。	○成果は出しているとは言え、コロナ禍ではPCR検査などの業務が大幅に増加していたと考える。検査手法については処理や測定方法の改善が必須である。得られた検査結果の解釈及び県民への成果のフィードバックについても重要である。ルーチン検査に収まらず、これまで同様に、新たな手法の開発・検討や解析を進め、その成果を公表頂きたい。 ○必要に応じ検証を行い、適切な見直しをされたい。
2 共 通 取 組 項 目	(1) 的確なニーズ把握に基づく研究推進と成果普及	○ニーズ把握の情報チャンネルの充実強化は図られているか。 ○成果普及のための手段は充実されているか。 ○開かれた試験研究機関の推進は図られているか。 ○成果が県の政策や施策へ活かされているか。	○科学的・技術的中核としての行政機関の役割を適切に遂行し、運営されている。 ○行政機関、大学、研究機関などとの連携（情報交換）を深めており、ニーズ把握はなされている。ホームページを含めた情報発信も幅広いチャンネルで行っている。 ○ホームページによる情報発信、県民日よりHYOGOでの紹介、など情報発信や試験研究機関の推進が図られている。 ○検査法や分析法などの研究成果も活かされており、研究推進と成果普及について、問題はない。 ○迅速検査法や一斉分析法などの研究成果を県計画に基づく行政試験検査に活用している。	○様々な取り組みがなされているとは言え、「県立健康科学研究所」の存在はまだ十分には知られていないように感じる。しばらくはコロナ禍であり、対面を伴う事柄（アクション）は実施しにくかったと考えるが、今後の広報活動について、新たな展開にも期待したい。 ○県民が見つけやすいサイトの作成など、得られた成果等を県民により迅速にわかりやすく情報発信することができればより良いと思われる。 ○担当部局、保健所等と一層の連携強化に努められたい。

兵庫県立健康科学研究所機関評価シート

評 価 者	県立健康科学研究所外部評価専門委員会	ページ	2 / 4
試験研究機関名	県立健康科学研究所		

区分	評価項目	評価の視点	評価コメント	県立試験研究機関へのアドバイス
2 共通 取組 項目	(2) 機関の自主性、 効率性を高める 業務運営の展開 ①分野横断的な取 組強化	○分野横断的な取組強化は行われているか。 ○県立試験研究機関間の連携強化は行われているか。 ○各県立試験研究機関内の連携強化は行われているか。	○適切に業務運営が図られている。 ○県立試験研究機関間、各県立試験研究機関間での連携強化が行われている。 ○農林水産部、他研究機関、県立大学との分野横断的な連携、あるいは、情報共有がなされており、問題はない。	○分野横断的な取り組みは大変な労力を伴うと考えるが、今後も、引き続き、更に大学などの外部機関との異分野を含めた連携を進めて頂きたい。 ○他部局の試験検査機関との横断的な取り組みのための仕組み作りが重要である。
	②研究マネジメン ト機能の充実強 化	○対外、対内マネジメント機能の充実・強化は図られているか。 ○研究評価システムの適切な運用と改善は行われているか。 ○毎年度の中期事業計画のフォローアップを行っているか。 ○研究課題のマネジメント体制は適切か。 ○研究課題の評価結果をマネジメントに適切に反映されているか。	○内部、外部から評価を受ける仕組みは機能しており、問題はない。研究課題のマネジメントも所内で適切に実施されている。 ○研究課題、機関評価について、内部評価会議および外部評価専門委員会によるマネジメント機能の充実、強化がなされている。 ○研究評価システムの適切な運用と改善が行われている。 ○各部長、課長などによるフォローのほか、複数研究員による研究体制によりマネジメントを実施している。 ○研究課題のマネジメント体制が適切に行われている。	○事業計画を踏まえた業務目標の設定及び内部評価、外部評価により、研究課題への取り組みを一層図られたい。
	③知的財産の創出 と有効活用の促 進	○県有知的財産の創出、活用体制の整備はできているか。 ○知的財産に関する関係機関との連携強化は図られているか。 ○職員のインセンティブの充実は図られているか。 ○研究成果の知的財産化及びその利用は十分に行われているか。	○知的財産などに関わる体制は整備されており、準備はなされている。一方で、研究所の性質上、特許などに結びつく例は少ないことも事実である。検査や前処理法など、得られた知識は広く関連機関などとシェアすることも重要である。 ○公衆衛生を担う研究所において、著作物、試験器機等の実用新案などの可能性が考えられるが、特許権等の知的財産の創出、有効活用の促進のテーマになじみは薄く、共通認識として創意工夫されたい。	○知的財産化につながる研究成果を出すための工夫が必要である。 ○知的財産は重要な資産となるため、いつでも対応できるように準備しておく必要がある。その際、「特許などに該当する発見・発明であるのか」、「申請はどのようにすれば良いのか」など、慣れていないからこそその、サポート体制の整備が必要であろう。必要な際には専門家に相談できるような体制作りが望まれる。 ○職員のインセンティブの充実を図るためのさらなる工夫が必要である。 ○論文投稿による諸経費等への適切な対応を図られたい。 ○生体試料等を取り扱う可能性から、倫理的検証も検討されたい。
	④機動的、弾力的な 予算運用	○国等の競争的資金など外部資金を積極的に獲得しているか。 ○所長の裁量的予算は適切に活用されているか。	○適切である。 ○複数の外部資金を獲得している。 ○日常の業務に伴うルーチン測定もあり、競争的研究費の申請は難しいこともあろう。一方で、研究費を得ることで業務にも役立つ研究成果が出しやすくなることも事実である。 ○所長の裁量的予算も活用しており、重点をおくべき研究課題をサポートしている。	○基本方針に資する研究に重点をおき、外部資金の獲得・活用を図られたい。 ○さらに多くの外部資金を獲得できるように外部資金への申請等を積極的に行うことが重要であると思われる。 ○予算の有効活用の観点から重点課題を優先し、適切に配分されたい。 ○研究費申請については、書類作成に時間がとられる点の一つの問題となる。申請書の採択率を上げるためにも、外部の有償サポート（申請書のチェック）なども活用できるのではないかと。その費用を負担するなどを検討頂きたい。 ○応用的な研究やすぐに成果が出る研究がもてはやされる昨今、研究内容が大変優れているから研究費が採択されやすいとは言い難い現状にある。所長の裁量的予算を柔軟に活用し、基礎的な研究を優先してサポートするなど、メリハリの付いた研究費の補助等をお願いしたい。

兵庫県立健康科学研究所機関評価シート

評価者	県立健康科学研究所外部評価専門委員会	ページ	3 / 4
試験研究機関名	県立健康科学研究所		

区分	評価項目	評価の視点	評価コメント	県立試験研究機関へのアドバイス
2 共通 取組 項目	⑤人材の育成、活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○人事交流の活発化は図られているか。 ○外部人材の活用は行っているか。 ○他の研究機関や大学等への派遣を行っているか。 ○研究員を対象とした研修等を行っているか。 ○学会等へ積極的に参加しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○適切に実施されている。 ○人的交流はなされており、問題はない。研究アドバイザーも活用している。研修（派遣含む）も実施されており、研究員の知識や技能向上に役立っている。 ○外部人材の活用や他機関への人材派遣が行われている。 ○研究員を対象とした研修等が行われた。 ○オンラインの普及もあいまって、学会などへの参加も積極的に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公衆衛生の科学的・技術的中核として、迅速かつ適切に機能するために、一層の人材確保と専門性の継続的な取組を図られたい。 ○日進月歩する専門性の研鑽に日々取り組む必要があり、地方衛生研究所全国協議会・国立研究機関の研修、関連学会等に積極的に職員を派遣されたい。また、必要な経費の確保に努められたい。 ○各研究員のモチベーションを維持し、高めるために、継続的に、外部関連機関などとの交流や学びを今後ともにサポートしてほしい。 ○多くの重要な成果がでており、その点がとても良いと思われる。そのため、より専門性の高い学会や研修会にも参加し、成果を発表することで県下での成果を対外的に周知することが重要である。
	(3) 産学官連携ネットワークの一層の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○産学官連携ネットワークは構築されているか。 ○公立の試験研究機関との広域連携ネットワークが構築されているか。 ○地域内の連携ネットワークの強化は図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○医薬品メーカーとの共同研究が行われている。 ○大学や国立感染症研究所との連携がとられており、産官学連携ネットワークが構築されている。 ○神戸大学との連携大学院の開設など、ネットワーク構築がなされており、十分な取り組みがなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国策もあり、多くの大学の部局で理系転換が図られているところである。神戸大学との連携も進めているが、更に、大学における理系の教育研究（学部教育含む）に研究所としても寄与できる部分もあるのではないかと。特に同じ県立という立場から、兵庫県立大学との更なる連携を期待したい。 ○地域の衛生研究所などとのさらなるネットワーク形成が図られるとより良いと思われる。 ○引き続き、研究所に資する連携強化を図られたい。
3 業務 執行 体制	(1) 組織	<ul style="list-style-type: none"> ○意思決定が速やかに行える組織となっているか。 ○研究現場の創意工夫が活かされる組織となっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究員と幹部の協議による課題解決に取り組んでおり、意思決定が速やかに行える組織となっている。 ○研究所としての業務の性質上、迅速な意思決定が必要な一方、十分な意思疎通も必要である。組織として、適切に協議・相談できる体制が整っていると評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一層の効率的な業務執行に取り組まれたい。 ○これまでと同様に、現場の声を拾い上げ、また、ある程度の裁量を現場に持たせ、各研究員の創意工夫が活かされる、アイデアを提案しやすい職場作りをお願いしたい。
	(2) 人員	<ul style="list-style-type: none"> ○人員は有効に活用されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取り組み、努力が認められる。 ○限られた人員のなか、適所適材がなされている。 ○効率的な事業遂行のための人材配置が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ○人材の確保及びその育成は、最も重要なテーマであり、所管部局と共に計画的な取組を期待する。 ○業務効率化を図っても限界はある。研究員の増員なども検討頂きたい。 ○検査機器を扱える人材の導入とさらなる育成が重要であると思われる。 ○所外研修も極めて重要で有り、必要な予算措置を図られたい。 ○重点課題にそれぞれ専門家を配置し、指導・研修により機能の強化を図られたい。
	(3) 事業費	<ul style="list-style-type: none"> ○試験研究費、事業費、維持管理費は、有効に活用されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取り組み、努力が認められる。 ○試験研究費、事業費、維持管理費は、問題なく、有効に活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○競争的な外部資金を得ると研究活動への大きなバックアップになる。昨今は、分野横断的な、出口を見据えた研究、応用的な研究が評価されやすい。そこで大学の研究者と連携して科学研究費などを申請することもできるのではないかと。 ○引き続き点検・見直し、強化に努められたい。

兵庫県立健康科学研究所機関評価シート

評 価 者	県立健康科学研究所外部評価専門委員会	ページ	4 / 4
試験研究機関名	県立健康科学研究所		

区分	評価項目	評価の視点	評価コメント	県立試験研究機関へのアドバイス
3 業務 執行 体制	(4) 施設・設備	<p>○施設・設備は有効に活用されているか。</p> <p>○維持管理は適切に行われているか。</p> <p>○機器は共同利用等により効率的に活用しているか。</p>	<p>○適切である。</p> <p>○新規の機器については保守点検契約があり、安定して運用できている。他の機器類も補修を実施しており、活用や管理については問題ない現状にある。</p> <p>○大学との共同研究等による機器の利用も行われているようであり、効率的な活用もなされている。</p>	<p>○機器整備は試験検査における必須で有り、常に見直しを図られたい。</p> <p>○機器類の維持管理については、重要な問題である。研究所の移設に伴い設置された大型機器類も保守契約などの継続が必要な時期と考える。いつでも使える機器とするためにも（維持するためにも）、維持管理に対して県からの何らかの予算措置を期待したい。</p> <p>○加えて、最新の研究機器を導入することで大幅な効率化も可能である。これまでの研究機器を大切に使いつつ、最新の機器も継続的に導入頂きたい。</p> <p>○分析機器は日々進歩し、迅速・省力化も期待できる。新築移転から5年が経過していることから、点検・見直し、計画的導入を図られたい。</p> <p>○共同利用などを増やして、検査機器の積極的な活用がなされるとより良いと思われる。</p>